

『講演会』報告

2月25日(土)午後2時～4時30分 今年度の大阪府支援教育研究会研究部の講演会が、クレオ大阪北(東淀川区東淡路)で開催されました。

当日はあいにくの雨模様の天気でしたが、支援教育に携わる先生方が60数名参加され、熱のこもった講演会となりました。

今回は、**NPO法人ラヴィータ研究所 子ども発達相談センター・リソース「和」**

所長 米田 和子 先生をお招きし、

「発達障がいのある子どもの理解と具体的支援」～ユニバーサルデザインの授業を通して～
という演題で講演をしていただきました。



前半は、子どもの発達について、定型の発達・障がいのある子どもの発達を照らし合わせながら、お話いただきました。また、発達障がいの特性と支援の基本についても、丁寧に説明してくださいました。

その中で、LD, ADHD, 高機能広汎性発達障害のある子ども達の発達の過程と発達課題について、「障害特性の受容」「キーパーソンの存在(わかってくれる人の存在:親・教師・友だち等)」「受容される集団(学校等)」などの大切さを伝えていただきました。

続いて、「読み書き障害」のある子どもについて、障害のタイプや特徴を具体的に話していただきました。

学習のつまずきの背景(発達の遅れ・抽象的思考の困難さ・学習困難・環境要因からくる未学習・社会環境からくる学びの低さなど)やその対応について説明をいただきました。そして、学習支援とは、安心感と自信を与えることが大切であり、学びの自信が生きる意欲へつながっていくことを教えていただきました。

後半は、「授業の工夫(ユニバーサルデザイン)」について、米田先生が訪問された学校の「ユニバーサルデザイン」について写真を見ながら紹介してくださいました。その取り組みとして、

- ・視覚教材の提示の仕方(分かりやすい教材の提示の仕方)
- ・声のレベル(声の大きさの使い分け)
- ・刺激の少ない学習環境 等

それぞれの学校で、子ども達に合った授業の工夫や取り組みを考え、発達障害のある子どもたちにとって、より分かりやすい授業を組み立てることが大切であることを教えていただきました。

最後に、「ユニバーサルデザインの工夫で大切なこと」として、『視覚化』『構造化』『協働化』を挙げられ、障害のある子ども達が、いかに分かりやすく授業を受けることができるか、「どの子ども分かる・どの子ども安心して学べる」そういう工夫を学校として考えてほしいとまとめられました。

(文責:大阪府支援教育研究会 研究部 堺市立上神谷支援学校 天野和彦)